

2023 年度実施 研究者交流支援制度実施報告書

理工学部 建築学科 専任准教授
門脇耕三

招 聘 研 究 者 : Dr. Alexander Eriksson Furunes

所 属 機 関 : NTNU (Norwegian University of Science and Technology)

招 聘 期 間 : 2023 年 5 月 1 日 ~ 5 月 13 日

特 別 講 義 : 2023 年 5 月 9 日 生田キャンパス

2023 年 5 月 11 日 中野キャンパス

研究交流を実施したアレクサンダー・エリクソン・フルネス博士は、地域コミュニティにおける住民の相互扶助を通じて建築をつくる実践に携わる若手の建築家であり、また研究者でもある。フルネス博士は、世界中のコミュニティと協働を続けており、フィリピンでの実践に対しては、第 17 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展において特別表彰が与えられている。またフルネス博士は、世界各地のコミュニティで営まれている相互扶助に共通する構造について研究し、ノルウェー科学技術大学の建築分野として初となる、芸術的実践に基づく新しいタイプの博士号を 2022 年に授与されている。

ホスト教員は、フルネス博士と同じく建築分野の研究者であるが、建築のハードな仕組みを専門としており、近年では建築部材のリユース（再利用）についての研究に取り組んでいる。そこで本研究交流では、両者の専門を掛けあわせるかたちで、コミュニティ内での建築部材のリユースを通じた、相互扶助による建築および環境維持の可能性に関する共同研究の端緒を開くことで、市場に過度に依存しないサステナブルなコミュニティの成立に貢献することを目指した。また、実践をベースとした新しい建築学の研究のあり方についても議論を行い、日本における展開可能性を検討した。

フルネス博士は 2023 年 5 月 2 日に来日したが、同日および 5 月 3 日にホスト教員と打合せを持ったのち、5 月 4 日から 5 月 6 日にかけて、ホスト教員と共同でフィールドワークを行った。対象としたのは、千葉県鴨川市の農村、神奈川県真鶴町の市街部、静岡県三島市の市街部である。コミュニティおよび資源状況の調査より、真鶴町に大きな可能性があることがわかり、ここをリサーチフィールドとした研究計画を立案することを決定した。

5 月 9 日には、生田キャンパスにて実践をベースとした建築学研究のあり方について建築学科教員を交えて議論した。特に学位研究のあり方については、ノルウェーで先進的な取り組みが行われていることがわかり、日本の建築教育への応用可能性についての議

論を行った。同日には、学部2年生を対象とした建築設計演習科目「建築設計2」の一環として行われた特別講義にゲストとして参加した。

5月11日には、中野キャンパスにて特別講義を行った。本講義は、完全英語教育を実施している、大学院理工学研究科 建築・都市学専攻 国際建築都市デザイン系の大学院生を主な対象とするものであり、多くの参加者を得た上、講演終了後も、教員および学生ときわめて活発な議論が交わされた。



5月11日の特別講演のポスターおよび講演のようす

以上のように、本プログラムでは、研究および教育の両面にまたがる多大な成果を得ることができ、またノルウェーと日本の共同研究の端緒を開くことができた。

最後に、本助成の機会をいただいた明治大学、とりわけ国際連携本部のみなさまに感謝申し上げます。

以上